

山梨県高P連通信

発行所／山梨県高等学校PTA連合会
 発行責任者／辻 宏幸 甲府市丸の内3-33-7 教育会館内
 TEL(0555)226-7290 FAX(0555)226-7133

ごあいさつ

県高P連会長 辻 宏幸



各加盟校の問題点については、その多くは、共通のものです。県高P連を通じて加盟校同士が意見交換を行い、コミュニケーションを深めることによつて、これからの県立高校の在り方を検討していきたいと思ひます。

今年度、高P連会長を拝命しております。甲府東高等学校所属の辻と申します。会員の皆様には、日ごろから県高等学校PTA連合会の活動や各単Pの活動に対してご理解、ご協力を頂きます。大変感謝いたしております。さて、新型コロナウイルスの位置付が「5類」となつてから一年が経過いたしました。社会全体がコロナ前の活動を再開し、再開後は以前にもましてスピード化が進んでいます。それと機を同じくして高等学校の活動も急激に活発化しているのを感じていいます。

そこで、各学校単位PTAについてもそれぞれの学校の特色をふまえて独自の在り方を確立し次世代の生徒に向けた取り組みを行うことによつて、学校、生徒のマッチングを図っていくべきではないかと思ひます。特色ある学校づくりを行う中でも、

各加盟校の問題点については、その多くは、共通のものです。県高P連を通じて加盟校同士が意見交換を行い、コミュニケーションを深めることによつて、これからの県立高校の在り方を検討していきたいと思ひます。最近ではPTA活動について中学校などから、多様な形態が生まれ始めていますが、高等学校PTA活動は、それぞれの所属により少しずつ異なり、ほとんど全てにおいて高校生活をバックアップすることを目的としたものとなつています。各学校でのPTA活動も、時代の流れや要望により、柔軟かつアグレッシブに動くことにより各学校及生徒に必要とされる形態へと変貌を遂げるべきではないでしょうか。

体の意見集約や要望を、県・教育委員会、関係機関へスムーズに行うことが出来る組織でありたいと思ひます。その一方として、学校現場の働き方改革も同時に行われ、健全な教育現場を実現することにより生徒や教員の安全確保が今以上に徹底すると思ひます。その点からも学校の考え方や取り組みが注目される年のスタートと言へるのではないのでしょうか。改革をはじめすべてにおいて今まで以上に県立高校がよりよい教育の場となるための一助をPTAが担っていくことを強く願つていいます。

生徒や学校での相談事も高P連事務局にて伺い、解決に向けたアドバイスなどを行う場合もあります。ご自身で解決できないことなどあるときはご連絡いただければ、対応方法を一緒に考えていきます。個人情報を含む場合には、情報共有等は行いません。今後も皆様と共に歩む決意です。よろしくお願ひいたします。

令和6年度 高P連定期総会

令和6年度山梨県高等学校PTA連合会総会が、去る五月二十四日、山梨市民会館ホールにおいて、山梨県教育委員会教育長様をはじめとする多くの来賓の皆様のご臨席のもと、県下加盟校から代議員百三十名の参加を得て、開催されました。

金井一憲会長の挨拶の後、ご来賓の降旗友宏教育長、橋田浩高等学校長協定会長からご祝辞をいただいたことともに、県教育委員会より金井会長をはじめ、県連の役員七名に感謝状をいただきました。

続いて議事では、令和5年度の事業・決算承認、令和6年度の役員承認に続き、令和6年度の活動方針、令和6年度の事業計画及び予算案が原案どおり決議されました。

◆令和6年度役員◆

顧問	中込 光司	小宮 広督
常任相談役	金井 一憲 飯嶋 明子 吉澤 茂樹	山岸 和仁 山岸 俊樹
会長	辻 宏幸(甲府東)	
副会長	清水 秀樹(北杜) 前田 武史(甲府昭和) 深澤公一郎(巨摩) 今井扶佐章(笛吹) 高村 明成(吉田) 橋田 浩(校長会)	
常任理事	早川 洋(韮崎) 奥山しのぶ(甲府南) 望月亜莉沙(身延) 丹澤 修(日川) 佐藤 義栄(都留) 山口 友江(盲) 高見澤圭一(校長会) 小林 太郎(校長会)	
監事	丸山 誠(甲陵) 渡邊 守(富士河口湖)	

(以上敬称略)

令和6年度各種表彰

◆全国高P連会長表彰

〔個人表彰〕

金井 一憲(前県連会長)

小宮 広督(前県連副会長)

〔団体表彰〕

◆関東高P連会長表彰

飯嶋 明子(前県連副会長)

山岸 和仁(前県連副会長)

吉澤 茂樹(前県連副会長)

手塚 俊樹(前県連副会長)

小林 智(前校長協会会長)

◆県教育委員会表彰

金井 一憲(甲府南)

小宮 広督(都留)

飯嶋 明子(韮崎工業)

山岸 和仁(甲府西)

吉澤 茂樹(白根)

手塚 俊樹(日川)

小林 智(校長会長)

(以上敬称略)



旧役員の皆様

第70回関東高P連大会の報告

全体会の報告

高P連副会長 清水 秀樹

第七十回関東地区高等学校PTA連合会大会千葉大会が、去る七月二十三日から二十四日まで、千葉県の幕張メッセで盛大に開催されました。

埼玉、群馬、茨城、山梨、神奈川、千葉の各県の高等学校、中高一貫校、特別支援学校のPTA会員が一堂に集い、研修と交流を行う大イベントです。

初日は、全大会として大会場にて二千人を集めた全体会が開催されました。

まずアトラクションとして、千葉県幕張総合高等学校のシンフォニックオーケストラ部の演奏がありました。この部は、昨年度に第七十二回全日本吹奏楽コンクール金賞を受賞している全国レベルの実力派。踊りながら演奏するという困難な環境にも関わらず、きちんとした演奏を披露されました。



笑顔絶えず、完全燃焼される清々しい様には、とても感動しました。



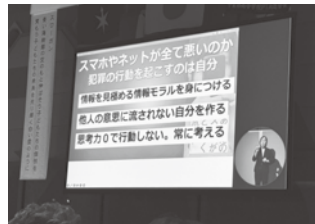
高校生の情熱とエネルギーをひしひしと感じる素晴らしい瞬間でした。

次に披露されたのは、NPO法人柏おやじダンサーズのダンス、このあつまりにおやじダンサーズ？と最初は思いましたが、この団体はもとと生涯教育授業から生まれたとのこと、いくつになっても学び、成長しようとする姿勢に接することができました。

技術はプロとはいかないながらも有名曲に合わせて踊る様は、会場をとても盛り上げていて、人の熱意の素晴らしさを感じました。

記念講演は「高校生の問題行動」というテーマで、一般社団法人スクールポリス理事の佐々木成三氏が講演されました。

元埼玉県警でデジタル捜査班の班長を務めてきた経験と、テレビのコメンテーターで磨かれた話術は、とても秀逸で、引き込まれました。



SNS時代という、誰もが体験したことのない世界を生き出している私たちは、大人と言えども経験がないことを体験しつつ子供を導くことに困難な時代、それを生き抜く知恵をえることのできる素晴らしいお話しでした。実際の事件を例にたくさん事例を説明され、「ミスコミュニケーションは日常。これを認知できることが大事」と語る氏の話を日常に生かそうと思いました。

分科会の報告

高P連副会長 高村 明成

前日の全体会、記念講演に続き大会二日目は、幕張メッセの国際コンベンションホールにて、5つの分科会が行われ私は第2分科会の「進路指導の援助をするためのPTA活動について」に参加しました。

最初の提案発表は、本県代表の県立蕨崎高等学校による「蕨崎高校PTA活動と進路指導行事の支援」です。



では「模擬試験」の実施主体を十年ほど前よりPTAで担ってきた。しかし、実態は主催とは名ばかりで教員のみで行われてきており、教員の負担の増大は経年の課題でした。そこでPTAでは、働き方改革を踏まえ「模擬試験の様子を実際に見て進路について親子で話すきっかけづくり」にすること、保護者と教員との負担の分け合い」を目標に、昨年度より「模擬試験に対するPTAの協力」を実施しました。具体的な活動は、試験日の横断歩道での交通安全指導や、あいさつ運動、問題の仕分けや会場での問題配布及び回収並びに集計などです。個人情報に触れる部分は避けられて行われています。高校生ともなると我が子の進路実現に向けての参画は難しくなります。そんな中で、この取り組みは保

護者が子どもたちと、学校及び勉強についての共有ができる貴重な機会となります。教員の負担軽減と、家庭での進路に対する意識の向上という目標が達成されており、PTAの活動として学校との連携がなされた有意義な取り組みであると感じました。蕨崎高校では、進路説明会や宿泊学習に対しての補助も課題として検討されており、柔軟で建設的なPTA活動に感謝を受けました。

次の発表は、神奈川県立舞岡高等学校により、「マイタケプロジェクト（マイタケ竹林活用プロジェクト）」変化に対応する持続可能なPTA」でした。

舞岡高校は、敷地の三分の一を占める竹林を活用した取り組みを行っており、竹林の整備と周辺一帯の清掃を行っています。注目すべきは、笹竹を活用した取り組みです。自然との共存という教育を果たしており、環境整備だけでなく、夏は小学校や地域の商業施設のイベントの笹飾り用に用いる。秋には生徒が主体となり、竹灯籠を作り商店街を飾る。そして冬には竹炭を製品化するという活動を行っています。学校敷地の特色を十分に生かした活動になっています。

重要なのは地域との関わり方の多様性です。単に地域とつながる活動だけでなく、PTA役員の負担軽減のため、地域の方やOBにも協力要請をして実現し、継続も出ています。地域と学校のつながりは全国的な課題ではありますが、なかなか実現は困難であり、竹を通して、地域とつながり、「総合的な探究の時間」においてのSDGsに関わる取り組みとしてPTAが有益な活動を実施できていることが素晴らしいと感じ大変参考になりました。

蕨崎高校は「学校との連携に努め、生徒たちが健やかに育つことが出来るように物心両面から支援を行い、最終的な目標は生涯学習社会に寄与すること」

舞岡高校は「伝統や役割に固執することなく、その時代の社会の状況に合わせて変化しながら活動を続けていくこと」

両高校ともに明確な目標設定とその共有がこの事業の実現と成功に結び付いていると思います。

「PTAは生徒、学校、保護者にとつて有用であり、常に目標から逸れることなく時代に合わせて刷新を繰り返しながら進んでいかなければならない。」と考えています。

私は講演を通して、大きな気づきを得ることが出来、明確な方向性を考えることが出来ました。今後は、今回の学びを出来るだけ周知、共有しながら、明確な目標達成のため実践していきたいと思えます。



参加者の集合写真

第73回全国高P連大会 開催される！

全体会の報告

高P連副会長 深澤 公一郎

去る八月二十二日（木）～二十三日（金）の二日間「歴史の町で変革を！」
～新たな時代が目に入らぬか～
をメインテーマに第七十三回全国高等学校PTA連合大会が茨城県にて開催されました。



北海道から沖縄まで、全国から保護者・学校関係者約六千人が集い、ものすごい活気と熱気で座れずに立ち見が出るほどの大会となりました。

全体会では全国高等学校PTA連合会の田名部智宏会長から、「急速な社会の変化に教育現場も対応していかねばならない」「子どもたちが未来に必要なスキルを身につけるためにデジタル環境の整備や教員のICTリテラシー向上が急務である」という時代に合わせた活動の必要があると話されました。

続いて、文部科学大臣、茨城県知事、水戸市長の式辞があり、その後昨年度の各種PTA活動に関わられた功労者の皆様への表彰がありました。

本県からの表彰者は次の三名です。

（個人表彰）

前高P連会長 金井 一憲様
前高P連副会長 小宮 広督様
（団体表彰）
白根高等学校PTA様



記念講演は茨城出身の二所ノ関寛氏（第七十二代横綱・稀勢の里）でした。

相撲界も変革の時代であり、部屋理念も教育も経営もこれまでのしきたり通りでなく今の時代に合わせたものにしていかねばならないという内容で、まさにPTA活動と重なる部分を多く感じました。

稽古に関しては、これまでの「部屋に土俵は一つ」という慣習を効率化や活用度を重視し「土俵を二つ作る」とにしたり、「二日一食」を、朝食をしつかりとって病気やケガ防止のために「一日三食」にしたり、「稽古は毎日おこなう」を疲労や筋肉の酷使はケガのリスクが上がるので「三日稽古で一日は基礎運動のみ」に変えていきました。

また人間関係においてもこれまでの「入門順の縦社会」がしきたりでしたが各自に意見が言える「番付順を規律としながらもフラットな立場」を目指したり、「竹刀等を使った熱血指導」から暴力根絶を徹底し「コンプライアンスを重視した環境」など、親方が実践

した変革への取り組みをユーモアあふれる口調で話されました。

その育成結果が実を結び、二〇二二年度の二所ノ関部屋は部屋別勝率が全四十四部屋中で一位の成績となりました。時代に合わせた変革に成果が出た瞬間だと会場中が拍手となりました。

変革には勇気が必要です。そして変革は一人では難しいです。PTA活動においても「すべては子どもたちの笑顔のために！」という気持ち忘れずに、身近な仲間とチカラを合わせて学校を盛り上げていけたら最高ですね。

これからも楽しんでいきましょう！



分科会の報告

高P連副会長 今井 扶佐章

茨城大会の分科会は五つの分科会で構成されており、コロナ禍を経て大きく変化した「PTA」という組織についてさまざまな問題や変化が生じていることを題材にテーマが絞られ講演が行われました。

私が聴講した分科会のテーマは「みんなんで考えよう、これからのPTA」です。

PTA不要論も聞かれるくらいさまざまな課題を抱えている一方でPTA活動を続けてよかったという方

ジティブな意見もあります。

この分科会は、前半は講演、そして後半は講師と参加者とのグループトークと大きく二つに分けた内容でした。

前半の講演では、「PTA問題だらけ」のような錯覚を覚え「だから不要」という乱暴な結論に達しがちな状況から問題点とその問題に対して整理を行い今後に向けた提案をしていたきました。

会議を遅くまでやっている感じがしてなんとなく大変そう。役員を担ってくれる人がいない。高P連などの巨大組織は何をしているか分からないし本当に必要な点か。など負のイメージや不透明な点が問題であり、どうしても敬遠しがちな活動と感じられてPTAは不要と飛躍的な結論に至っているのではというところから、今までの問題を整理し理解することで今後に向けたPTA活動について提案を頂きました。

一例をあげますと、会議を短くする方法として、会議前にSNSやICTを利用して意見交換を行い、事前に落としどころを考えておく。また負担と考えるPTA活動に関しては、学校運営協議会と連携し負担軽減する取り組みを考えていくなどの提案をいただきました。

後半のグループトークでは、全く面識がない参加者同士で小グループを作り、自分の学校の楽しい活動の報告や何かしら抱えているPTAの悩みを報告し合い、小グループで解決できない問題があれば、講師や会場の参加者に問いかけることでよりよい解決策を探し出すといった対話形式での講演でした。

参加者みなさんの共通の悩みとしては、PTA役員を受けて頂く良い方



参加者の集合写真

法はないかななどの問いかけがありましたが、ある高校では入学式後の学年集会でPTA活動を動画公開することですんなり役員を決められたとの事例があることをうかがえ、実りあるグループトークでした。

現在、PTAの退会・解散が増えてきていますが、子供たちが安全で安心して学園生活を楽しく過すためにPTAは必要だと感じています。

この講演を通じて、生徒数の減少や大きく変化している社会でPTAに前向きに楽しく参加してもらうための新たな取り組みが必要だと感じました。



子どもたちの 成長を見守って

山梨県高等学校校長協会会長

橋田 浩



平成二十七年十二月に取りまとめられた中央教育審議会答申を踏まえ、平成二十九年には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校」への転換を図るコミュニティ・スクールへの移行が進んでいます。

山梨県においても、今年度からの三年間で、すべての県立学校をコミュニティ・スクールとする計画です。学校運営協議会の主な役割は、

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることでできること
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることでできること

各県の委員には、保護者代表としてPTA役員が加わる人が多いと思います。学校・地域・家庭が一体となって、子どもの成長のために協力できる良い機会ですので、様々な御意見を寄せてほしいと思います。

また、子どもたちのスポーツ環境をより充実させるとともに持続可能なものにしていくため、中学校における休日の部活動を学校単位から地域単位の取り組みにしていこうなど、運動部活動改革が進んでいます。

高等学校における議論はこれからですが、少子化が進むなか、生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するためにも、部活動の改革は必要です。

また、教員の働き方改革や教員確保の面においても、部活動の在り方に関する議論を避けては通れません。

先のコミュニティ・スクールへの移行とともに、保護者の皆様の御意見をいただきたいところです。

さて、この夏の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）や全国総合文化祭等においては、県内高校生の活躍が多数見られました。

来年度の全国高等学校総合体育大会中国大会2025のテーマは、「開け未来の扉」だと聞きました。

スポーツの世界のみならず、未来の扉を開くのは、若き子どもたちの力です。教職員・保護者それぞれが、各自の立場で、子どもたちの成長を温かく見守っていきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様のPTA活動への御協力に對しまして深く感謝申し上げます。結びといたします。



第3回高P連活動事例発表会を開催！！

去る十月二十七日（日）、高P連主催の「第3回高P連活動事例発表会」が県立甲府東高等学校を会場に開催され、昨年と同数の六十一名が参加しました。

開会行事の後、第一部の「事例発表」では、次の二校による発表がありました。



今回の二校の発表は、いずれも七月に千葉県で開催された第七十回関東地区高等学校PTA連合大会（千葉大会）で発表されたものと同じです。

（一）身延高校
発表者：望月亜莉沙 PTA会長
テーマ：『地域とともに歩むPTA活動』

※生徒減少に伴う、PTA会員数の減少、通学範囲の広域化、保護者の多忙化など、様々な課題がある中で、スクールスローガン「チーム身延」の下、生徒・教職員・保護者のみならず地域の人々をも巻き込んだ取組についての報告でした。

（二）韮崎高校
発表者：平川久 教諭
テーマ：『韮崎高校PTA活動と進路指導行事の支援』

※運営会社の営利業務に教員が従事することが問題になっている模範試

験の運営・実施にPTA役員が主体的に協力するとい

意見交換会の様子



う取組の報告でした。続く、第二部の「意見交換」では、全員が8つのグループに分かれて、活発な意見交換がなされました。発表会終了後のアンケートでは、他校の取組の様子を聞くことができて参考になった。意見交換会はとても良かったので、今後も継続して欲しい。など、前回と同様に肯定的な意見が多数寄せられました。また、教育に係る学校と保護者の連携の重要性を指摘される意見も多く、高P連事務局としても、この企画が有意義なものとなるよう、一層の改善に努めて参ります。

※高等学校安全互助会

【給付対象の災害】



- 学校の管理下において生徒が受けた災害で、独立行政法人日本スポーツ振興センターから災害共済給付金を受けた災害
- ① 死亡共済金 最大300万円
- ② 後遺障害共済金 障害の等級ごとに 10万円～300万円
- ③ 医療共済金 同一の災害について、振興センターからの医療費給付額が3万円以上のものについて、その10分の1を給付。
- ④ 歯牙欠損共済金
- ⑤ 特別死亡共済金 最大150万円
- ⑥ 特別給付金（香料） 5万円

※過去5年間の給付件数は平均すると年間146件です。

【問い合わせ先】

一般財団法人
山梨県高等学校安全互助会
TEL 0551-22617290

第19回広報紙コンクール

令和六年度県高P連主催の広報紙コンクールの結果です。（参加14校）

◆最優秀賞

県立巨摩高等学校PTA

◆優秀賞

県立甲府支援学校PTA

◆奨励賞

県立甲府東高等学校PTA

県立富士河口湖高等学校PTA